

## 議事録

件 名：令和3年度第2回さぬき市地域公共交通会議

日 時：令和4年3月2日（火）午前10時00分～午前11時40分

場 所：さぬき市役所3階301・302会議室（※オンライン併用）

出席者：【委員】紀伊会長、尾崎委員（会長職務代理者）、上野委員、六車委員、小倉委員、元山委員、頼富委員、天羽委員（オンライン）、溝渕委員、石原委員（オンライン）、岩崎委員（オンライン・代理出席）、鹿児島委員（オンライン）、佐々木委員、手嶋委員（オンライン）、福澤委員（オンライン）、藤本委員、前田委員、松本委員、南委員（オンライン）、宮崎委員、宮本委員（オンライン・代理出席）、堀委員  
【アドバイザー】香川大学創造工学部 大場教授  
【市】都市整備課 津田課長、津村課長補佐、藤井主査

傍聴者：0人（新型コロナウイルス感染症予防対策の一環として傍聴受付なし）

配布資料：資料1 令和3年度さぬき市地域公共交通計画掲載事業の取組概要  
資料2 【さぬき市地域公共交通計画】各種事業の進捗状況報告  
参考資料【さぬき市地域公共交通計画】各種事業の進捗状況報告補助資料  
さぬき市地域公共交通会議委員名簿

---

### 【次第及び概要】

#### 1 開会

#### 2 会長挨拶

#### 3 議事

##### （1）令和3年度さぬき市地域公共交通計画進捗状況について

会 長：議題1「令和3年度さぬき市地域公共交通計画進捗状況について」と議題2「令和4年度に向けた情報共有・意見交換」についてですが、関連性が深く、取組に協力いただいた委員も多いと思われるので、事業ごとに、事務局説明・補強説明・質

疑応答を行い、最後に全体を通した意見交換を行いたいと思います。時間が限られていますので、私が説明事業を指定するかたちで進行していきたいと思います。「資料1」をご覧ください。まずは、事務局から、「事業14：案内表示、トータルデザインの見直し（香川大学との連携）」の説明をお願いします。

事務局：＜説明（令和4年度の展望含む）＞ ※資料1・資料2・参考資料

会長：事務局からの説明は以上とし、大場教授から補強説明を頂きたいと思います。

大場教授：香川大学の代表と申します。事務局から紀伊会長を通してこのお話を頂き、私のゼミでぜひトライしてみたいと思い、課題として学生が取り組みました。これは「論文」というよりも、「作品論文」です。私たちの科はデザインコースでもありますので、作品を通して仕上げています。単に物を作るのではなく、多くのリサーチを通して課題を見つめています。この後ビデオがありますので、そちらをご覧くださいと思いますが、私たちがダブルダイヤモンドと呼んでいる手法があります。1つめのダイヤモンドで、リサーチを通してどういった課題があるか、何が一番重要な課題であるかを収束します。2つめのダイヤモンドで、どうすればデザインとしてその課題を解決できるか、最も効果的な方法で作品を仕上げていきます。このダブルダイヤモンドという手法で学生が卒業制作を行いました。学生本人もこの場に出席したかったのですが、現在、就職のため遠方にいますので、コメントの入ったプレゼンのビデオを流させていただきます。

＜ビデオ再生＞

大場教授：以上となります。高松市立美術館の市民ギャラリーで卒業展示会を行い、メディアにも取り上げられました。先程紹介したアプリですが、実際に動いているバス停を利用して、皆さんに触っていただける作品として仕上げることができました。「8か所お遍路さん」ですが、他の方がどういったことに興味を持ち、どういうルートで行ったかに着目し、アプリに繋がったことが楽しかったのではないかと思います。「結願のバス停」では、自分たちの願いをバス停に投げると、バスがその願いを運んでくれるというアイデアがとてもユニークで、楽しかったと思います。最後に、ここに至るまで、関係者の皆さんには多大なご協力を頂きましたことにお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。以上となります。

会長：ありがとうございました。それでは、本取組に関する質問や、次年度に向けて期待することなど、忌憚のないご意見をお願いします。

委員：大変素晴らしい作品になっていると思います。観光協会でも外部の方にどうやってさぬき市の魅力を発信するか苦心しているところですので、この作品を通して連携ができればと思います。先程パンフレットも見せていただきましたが、上り三か寺を主に、食に関することや、季節に関するイベントなども取り入れればより良いものができるのではないかと思います。まずこのアプリがあることを、利用者側に広

く周知していくことが重要ではないかと思えます。バス停に願いやメッセージを投げるといふ、アプリを活用している点が現代的であり、とても面白いと思えます。10年位前にお菓子で特産品を作ろうという取組があり、お菓子の中にメッセージカードを入れてそれを返信してもらえば、実際にお参りをしていなくても願いが届くといった工夫を当時はしていました。最近の傾向で、物語を作るといったコンセプトも重要になってくると思えますので、これをベースの案として、どんどん肉付けをしていけばより良いものが出てくると思えます。休日のダイヤ編成や、各箇所への滞在時間の配分などのモデルコースの案内があってもいいように思えます。このように構想が広がるととても良い研究テーマだったと思えます。

大場教授：ありがとうございます。今の話にあった「物語を作る」ということはとても大事なキーワードだと思います。今の若い世代はスマートフォンベースでどんどん人と繋がり、コミュニケーションをとり、物語を作っているということを当たり前に行っています。今回の取組を、次の世代に向けて広めていくことが大事だと思います。アプリは現在デモンストレーションの段階です。実装するには、あと二ステップ、三ステップ必要で、難しいとは思いますが、実現性の高いものだと思いますので、今後も挑戦していけたらと思います。

会長：ありがとうございます。他に意見はありますか。

委員：失礼します。前回の第1回会議でコミュニティバスの見直しについて意見しました。その中で、志度・造田・多和線は必要かという問題提起をしました。このことについて考えていましたが、本日のプレゼンや「さぬき市コミュニティバスで巡るさぬき旅を楽しむための本」を見て、この一冊で非常にイメージができました。今までは大窪寺へ行くコミュニティバスはあっても、帰りのバスの時刻がうまくいってないように思えて、観光客を誘致するにしても、そこがネックになっていました。旅行で他県を観光する時に必ずマップを見ます。問題点に時刻がありましたので、この1冊のパンフレットを所持していれば、どこの土地にどのようなものがあるか、ここに行った時、どの時刻のバスに乗ればいいのか、志度・造田・多和線に関して一目瞭然です。今までは他線の掲載もあったので見づらく、諦めてしまい、利用にあたって現実的なものではありませんでした。皆で出かける計画にコミュニティバスを利用したくても、結局自家用車を使ったりしていました。しかし、コミュニティバスで行くということは、地域コミュニティを見直すことにも繋がると思えます。そのためにも、このパンフレットはとても素晴らしいと思えます。他県からの観光客のみならず、地域の人たちにも役立つ取組をしていただき、感謝しています。問題提起をした以上、どうなるのか不安でしたが、とても良い結果になったと思えます。ありがとうございます。

大場教授：大変共感いただき、とてもうれしく思います。今のお言葉は学生にも伝えさせていただきます。彼女自身が「さぬき市に訪問する」という視点を大事にしたかったため、今回は観光メインの取材を中心に研究させていただきました。その客観的視点がうまく反映して、このパンフレットに結び付いたのではないかと思います。お言葉、ありがとうございました。

会 長：ありがとうございました。他に意見はありますか。

委 員：ビジネスの面で考えると、例えば、航空便で岡山・那覇、高松・那覇という路線があります。岡山・那覇は岡山を朝一８時に出発し、帰りは那覇を１８時半くらいに出発します。ビジネスの利便性が高いです。高松・那覇は高松を１４時に出発し、帰りは那覇を１８時半くらいに出発します。朝から仕事するとなると、前泊する必要があります。航空便は、高松・那覇より岡山・那覇の方が金額は１万円ほど高いですが、前日に行ってビジネスホテルに宿泊することを考えれば岡山・那覇の便を利用した方が、時間的な合理性が高いです。コミュニティバスを利用すると大窪寺の駐車場を運営している人の収入が減るのではないかと思います。駐車場運営者はみやげ屋を併設していると思います。コミュニティバスの志度・造田・多和線を利用するとみやげ屋で使える割引優待券がもれなく付くなど、そういった肉付けがあってもおもしろいと思います。今、コロナが流行っている中で、県外出張して帰ってきた保育園や幼稚園の先生や介護施設の方はすぐに自宅に帰れません。高松市内などでホテルを利用して待機し、すぐに自宅に帰らないようにしています。現在は様々な補助があり、地元に戻った時に使える金券がもらえます。そうすると待機したホテルの宿泊費が無料になったりします。利用頻度をあげるためには、そういったビジネス的な要素も加えるといいかもしれません。

会 長：ご意見ありがとうございました。他に意見はありますか。

委 員：＜意見なし＞

会 長：今回、大場教授と学生さんのご協力で、非常に立派なデザインの提案を頂いたと思います。大場教授からお言葉があったとおり、これで完成ではなく、次年度に向けてこれをどのように活用していくか、委員から意見もありましたので、参考にして引き続き検討していきたいと思います。大場教授はここで退席されます。ありがとうございました。

＜大場教授 退席＞

会 長：それでは、続いて、「事業１２：地域住民主体の取り組みによるコミュニティ交通の導入」について、事務局は説明をお願いします。

事 務 局：＜説明（令和４年度の展望含む）＞ ※資料２・参考資料

会長：ありがとうございました。それでは、「南川やまびこの風」の会長でもある小倉委員、取り組んできた感想や、現在の状況、今後の目標などについてお話しいただけますか。

委員：失礼します。昨年の7月から半年以上経っていますが、なかなか思うように進まず、徐々に進めている状況です。会長の責任もありますが、コロナの影響が大きく、思うように会合を開けないのが実情です。移動サービスは、個々に考え方が異なります。必要としている人もいれば、必要としない人もあり、やり方にしてもいろいろあります。この半年で、そういった考えの違いをすり合わせる期間があったことはよかったと思います。最初にまず現状を知ろうということで、南川地区の65歳以上の高齢者を対象にアンケートをし、67人の調査対象のうち60人から回答を得ました。約90%の回答率です。その結果、運転免許を保有している人は約78%であり、多くの人が車に乗っています。「どのくらいの頻度で車に乗るか」という質問には、「2日に1回」という回答が多く、これが実情のようです。免許返納に関して、「免許を返納したいと思う」という人が11%、それを80歳以上に限定すると26%、2倍以上の人が免許返納したいと思っていることとなります。ところが実際なかなか運転免許を返納できない理由は、「車がなかったら外出の手段がなくなる」、「行動が制限される」、「日常生活に支障が出る」等があげられています。このアンケートを基に考えまして、移動サービスをしようと、昨年の12月に「南川やまびこの風」を立ち上げました。実際、移動サービスを行うのにどういったシステムが良いか考えたところ、どうしてもボランティアとして、地元住民の協力が必要になります。ボランティアだけではなかなか長続きしないため、長く続けられるシステムにしたいですし、「移動サービスがあるから免許返納をしてもいい」と思ってもらえるようなシステムを作りたいと思っています。高齢者が関係する交通事故が70%を超えているので、事故を減少したい思いもあります。そのうえで、利用者が払う金額をできるだけ安くしたいです。現在の国民年金の月額平均は約6万5千円だそうです。高齢者の多くは国民年金だけで生活しています。できるだけ、かかる費用は抑えたいです。現在は地元のタクシーだけが頼りになっていますが、この移動サービスによりタクシー会社の利用率が下がることになれば問題になります。あとは、コミュニティバスとうまく連携ができないか考えています。福祉の面では、高齢者になると外出を控えるようになるので、車で出かける率にしても、65歳以上と80歳以上を比べると、80歳以上が半分に減ります。やはり高齢者が出かけなくなると、人とのコミュニケーションが減ります。言葉を使わないことで認知症になりやすいというデータもあります。難しいことではあると思いますが、アドバイスを頂き、相乗りタクシーはどうだろうかという意見があり、1月の定例会で打合せをしました。車を運転する人にとって、相乗りは窮屈なもので

すので、まずは相乗りの練習をしようと考えていますが、現在はコロナの影響で控えています。コロナが落ちつけば、観光など、コミュニティバスをうまく利用して、前山や大窪寺に行く計画をしようと考えています。とりあえずいろいろ試してみて、難しければ別の方法を考え、気楽な気持ちで取り組もうと思っています。以上です。

会長：ありがとうございました。本件には、頼富委員、宮崎委員も深く関わっていると伺っています。これまでの取組を通して感じていることや今後についてなどのご意見をお願いします。

委員：失礼します。先ほど説明があったとおり、南川地区は7つの自治会で、人口は約300人です。そのうち6つの自治会で民生児童委員、福祉委員、自治会長、婦人会などがメンバーとなった13人程度と、事務局や、社会福祉協議会とも連携を取って、ご指導を頂きながら、高齢者の移動支援の確保、生活支援体制の整備事業ということで進めているところです。地区住民の免許返納後の公共交通機関の需要があるかどうかにもよりますが、組織体制を整備することによって、免許返納後でも地域住民に安心感を与えることができると考え、検討を重ねているところです。概要は小倉会長が申し上げたとおりです。よろしくお願いします。

委員：12月から南川地区で活動がはじまることを事務局から連絡を受け、参加させていただいています。全国的にも、行政担当が何か取組をやるのであれば、「この場所」という見当があると思います。その時に住民側に地域をコントロールできる人材がいないと何も物事が進まないという問題意識を持っていました。今回、南川の件を知り、お話を聞きたいと思い、参加しています。南川地区の件は先ほど説明があったとおりですが、一方でさぬき市の中で、公共交通だけではなく、問題や取組があればぜひ声をかけていただき、ワークショップや意見交換といった場などに積極的に関わりたいと思います。地元住民さんだけでは意見をとりまとめるのはなかなか難しいのではないかと思います。先ほど説明があったとおり、いろいろな意見や思いが錯綜する中で、どうやればいいのか考えるのは難しいです。そういったことを私がサポートできればと思っております。何かありましたらご協力させていただきたいです。よろしくお願いします。

会長：ありがとうございました。皆さん、本取組に関する質問や意見、アドバイスはありますか。

委員：オンラインの音声が届きにくい部分もありましたが、南川地区の皆さんがご苦労されているということがわかりました。タクシー会社と連携をとりながら取組をしているということで、今後も、進捗があれば運輸局に相談頂きながら進めていただければと思います。よろしくお願いします。

会長：ありがとうございました。

委員：失礼します。「南川やまびこの風」の会議にタクシー業者を呼んでいただければ、具体的な話もできるのではないかと思います。市内にタクシー会社は5社あります。担当地域のようなものがありまして、南川でしたら志度や津田の業者は厳しかったりします。いったん5社が集まって、業者間で、できる、できないの話をさせていただければと思います。相乗りであれば、業者のほうでとりまとめて、時間と場所を決めて集まっていたら、迎えに行ったタクシーで、スーパーなどの目的地まで行くこともできると思います。タクシーの利点といいますか、メーター数で料金が決まるので、乗った人数で割れば、多少、料金は安く済むかだと思います。具体的な話として会議に呼んでいただき、ご相談させていただければと思います。非常に内容の濃い話になっていると思います。以上です。

会長：ありがとうございました。いろいろな課題があり、まだまだ模索しながら決定していくこととなりますので、引き続き、次年度に向けて取り組んでいただければと思います。他にご意見はありますか。

委員：＜意見なし＞※資料2・参考資料

会長：それでは続いて、「事業16：市民（高齢者等交通弱者）等によるモビリティ・マネジメントへの取組」について、事務局、説明をお願いします。

事務局：＜説明＞

会長：ありがとうございました。本件について取り組んでいただきました前田委員から、何かありましたらお願いします。

委員：失礼します。今年初めての取組として、事務局と一緒に5回ほど参加させていただき、私からも交通事故防止の観点から公共交通の利用について勧めさせていただきました。昨年一年間でさぬき署において、だいたい100人ほど運転免許の返納がありました。そのうち6割、つまり60人が旧志度地区の人です。やはり志度地区は便利であり、私もそういう認識です。今年一年たくさんの高齢者とお話をさせて頂き、ちょっとでも料金が安いことや、便利さを求める傾向が強いと思います。先ほどお話があったとおり、年金の月額平均が約6万5千円ということで、この金額ではなかなか生活することが厳しいのではないかと思います。可能な限り補助できるものは補助をする。80歳を超えた方は生活するのも大変かと思うので、補助や便利さがあれば、もっと公共交通機関を利用していただけないかと思っています。令和4年度も事務局と協力し、公共交通機関の利用を勧めながら、交通事故防止も併せて推進していきたいと思っています。よろしくをお願いします。以上です。

会長：ありがとうございました。引き続き令和4年度もご協力をお願いします。他にご意見はありますか。

委員：＜意見なし＞

- 会 長：それでは、続いて、「事業17：買物・通院等のバスを利用した外出モデルルート  
の提供」について、事務局、説明をお願いします。
- 事 務 局：＜説明＞※資料2・参考資料
- 会 長：ありがとうございました。11月17日実施の「コース①」に参加された小倉委員、  
参加してみていかがでしたか。
- 委 員：はい。参加させていただき、久しぶりにバスに乗ったのですが、バスの中から見  
える景色の違いに感動しました。車は運転しますが、バスに乗ったら時間の流れ方が  
違います。その時は、事務局の説明を聞いていたのでなんとか保てました。ひとつ  
感心したことは、運転手さんがよく話しかけてくれることです。おもしろいし、嬉  
しく思いました。こういう取組を続ければ、コミュニティバスの利用者も増えると  
思います。以上です。
- 会 長：ありがとうございました。今回は、大川自動車の路線バスを加えたコース設定がな  
されていました。これらを踏まえ、感想や、今後に向けたアイデアなどはありま  
せんか。
- 委 員：事業13にも関係しますが、本日の香川大学の学生さんの発表の中にも徳島文理大  
学が移転する話がありました。大学側が、コミュニティバスの時刻表を決める時に  
相談をさせてもらった時は、行って帰ることや出発地点からどういう経路で繋がる  
かという内容で、時刻のお願いをしました。今日の発表では、行って帰るだけでな  
く、観光なので「巡る」ということになります。巡るとなると、バス路線が通って  
いないところへはタクシーを利用しなければならない。タクシー業者も担当地域が  
あるので、うまく段取りをして、この区間ならこのタクシー業者が相乗りで行けま  
す、というような色々な知恵を出し合う必要があります。観光に関する事なので、  
観光協会がモデルルートを作り、高松からJRを使い、タクシーをうまく使いなが  
ら、どのようにさぬき市を巡るか、いくつかモデルルートを探っていかなければ  
観光の足が止まってしまいます。このようなことを、事業17、事業13で検討し  
ていただければありがたいと思っています。
- 会 長：ありがとうございました。観光に使っていくという提案も出された中で、どのよう  
にして具体的なルートにしていくか、また、バスでカバーしきれていない部分をど  
のように他の交通手段で補完していくのか、検討する余地がありますので、ぜひ次  
年度にご検討いただければと思います。他にご意見はありますか。
- 委 員：＜意見なし＞
- 会 長：それでは、続いて「事業3：鉄道駅・集客施設・主要バス停等におけるバス待ち環  
境の整備」について、事務局、説明をお願いします。
- 事 務 局：＜説明＞※資料2・参考資料



- 会長：ありがとうございました。事業所等の協力により、バス環境が整えられているという紹介がありました。写真を見る限り、かなり変わったように思えます。コミュニティバスを運転する上で、バス停に問題点はありますか。また、お客様の反応などはいかがでしょうか。
- 委員：失礼します。特に、神野のバス停は非常に好評でした。病院に行かれる方が使うバス停ですので、病院の前に移動したことで、非常に喜ばれています。利用者から、停留所が自動販売機のあるところに設置されており、椅子に座ってバスを待っていると心地が良いとの声がありました。以上です。
- 会長：ありがとうございました。好評な改良がなされたということですので、引き続き令和4年度も改良できるところを検討していければと思います。他にご意見はありますか。
- 委員：＜意見なし＞
- 会長：それでは、今回ピックアップした案件について説明されました。その他にも様々な取組がなされています。今まで説明した事業以外で詳しく知りたい事業はありますか。説明の希望はありますか。
- 委員：はい。質問になりますが、徳島文理大学の移転が決まっています。その際に、コミュニティバスのダイヤが大幅に変更になるかと思いますが、具体的にいつ頃から検討することになりますか。
- 事務局：徳島文理大学の移転は決まっていますが、学生の通学状況など最終協議を行わなければならないと思っています。それらを踏まえた上で、ダイヤ改正については、私の経験上2年ほどかかると思っていますので、来年度から、徐々に、リサーチや協議を進めながら新しいダイヤ・ルートを検討したいと考えています。ルートが大きく変わる可能性もありますので、時間をかけながら、慎重に進めていこうと思っています。関係する事業所には逐次、相談させていただきましますので、国や県の方も含め、今後もよろしくお願ひします。以上です。
- 会長：ありがとうございました。他にご意見ありますか。
- 委員：今、徳島文理大の移転の話が出ましたが、文理大の学生だけが利用している路線であれば見直しを行えばいいと思いますが、普段からコミュニティバスを利用している人は、今のダイヤに合わせた生活をしています。文理大が移転するからと、すぐに路線を見直すというのは待ったほうがいいと思います。以上です。
- 会長：ありがとうございました。そうは言いながらも、需要そのものが変わってしまいます。検討に2年くらいかかるということですので、今の文理大以外の利用者の動向とあわせて、今後ご意見を頂ければと思います。他にいかがでしょうか。
- 委員：はい。観光協会からの視点になりますが、さぬき市内でイベントをする際にチラシを作成します。よく考えてみると、イベント会場の最寄りのバス停は徒歩何分とい

った記述をチラシに入れることはありませんでした。ふと思ったことは、あばれみこしというイベントがあり、コロナの影響でここ2年は行っていませんが、来場者が多く、路上駐車が問題になっており、近隣住民からクレームがでているイベントです。イベントチラシや広報に最寄りのバス停とバスの時刻の案内を記載するのは良い案かもしれません。観光協会側には私から話をしておきますので、ぜひコンタクトを取っていただければと思います。以上です。

会 長：ありがとうございます。他に意見はありますか。

委 員：＜意見なし＞

会 長：それでは今年度の取組についての協議は、以上にしたいと思います。

## （２）令和４年度に向けた情報共有・意見交換

会 長：議事２「令和４年度に向けた情報共有・意見交換」とありますので、ここから来年度に向けた意見交換をしたいと思います。ここまでの議論でも来年度の話は出てきていましたが、全体を通しての感想とか個別事業へのアドバイス等、前進に向けたご意見をお願いします。オンラインで視聴している方で、ご意見がある方は、事務局をお願いします。チャット機能なども利用して意見をお願いします。先に会場の委員で、ご意見がありましたらお願いします。

委 員：はい。今年度の取組は本当にたくさんあります。関係の方々には本当に感謝しています。こういった形で来年度も引き続き、「このような取組もできるかもしれない」と思ったらチャレンジしていきたいと私は思っています。それでは、資料２の中で気になった点をお話します。先ほどの香川大学の取組についてですが、非常に良い取組をしていると思います。アプリの実装までは時間がかかるということですが、すでに冊子は完成していますので、ぜひ印刷をして主要な観光施設やJR 駅で配布したら良いと思います。そうすれば、見た方からコメントをもらえると思いますので、それを参考にし、ブラッシュアップしていけば良いと思います。これはすぐにも行った方が良いと思います。資料２の１２ページに令和４年度は「令和３年度研究制作物の活用検討」となっていますが、検討ばかり行っても実装できません。ここは「実装」とした方がよいと思います。せっかくアプリや観光客向けの話なども出てきましたので、バスの現在地がスマートフォンから確認できるといいかもれません。ご承知のとおり、コミュニティバスは本数が少ないため、乗り過ごしてしまうと結構大変なことになります。事業には入っておらず、資金も必要なため大変だと思いますが、バスロケの実装に向けた検討も必要だと思いました。お金をかけずに取り組めることはたくさんあると思います。私から皆さんに呼びかけるというよりは、できることを自発的に発言してもらった方が取り組みやすいと思います。他の自治体の過去の事例や取組を紹介しますので、参考にしながら、さぬき市

ではこんなことが出来るのではないかと、どんどん前向きなアイデアを出し合っていけばいいと思います。今後もぜひご協力頂きたいです。来年度まで1ヶ月もありませんので、今からでもお願いします。以上です。

会 長：ありがとうございます。パンフレットは印刷して置く場所さえあれば、配布することは可能だと思いますので、ぜひお願いします。バスロケについては、ことばバスなどはすでに実装されています。予算がどれくらい必要かなどを調査することくらいはすぐにできると思いますので、来年度取り組んでいければと思います。ここにいる委員の方々が、計画書記載の事業に関する活動をすでに行っており、本日もご紹介頂いたところです。これは公共交通の利用促進には不可欠なことです。この活動を、引き続き、市からの提案に基づいて、協議会の中で情報共有し、お互い協力できるところは協力しあっていく仕組みにしていければと思います。行政だけでは届かないところ、手が届かないところがたくさんあります。そういったところを協力することで、支えていけるということを、この場で検討して取り組んでいければと思います。他に意見はありますか。

委 員：はい。徳島文理大学では、メディアを通じた大学の宣伝は行っていません。代わりに、研究成果を公表して、メディアに出演するように大学内で取り組んでいます。ぜひこれらの取組についていろいろなところに宣伝を行い、さぬき市の考えを広めて欲しいです。香川県内では、三豊市が観光を中心にうまくメディアを活用しています。このようにメディアを通じたアピールも、もう少し多く取り組んで欲しいと思います。

会 長：ありがとうございます。他の自治体の参考になる部分があれば、検討いただければと思います。他に意見はありますか。オンライン参加者はいかがでしょうか。

委 員：＜意見なし＞

会 長：それでは、事務局から何かありますか。

事 務 局：はい。様々なご意見をありがとうございました。パンフレットについては、Siro アプリの記載部分の削除などの修正を施して印刷・配布に取り組もうと考えています。先ほどのバスロケについては、東かがわ市や大川自動車と必要性について話し合いをしているところですので、タイミング等も含めて、前向きに検討していきたいと考えています。Siro については、デジタルサイネージの効果を持たせることができるのか、実装に向けて何が必要かなどを大場研究室を通して話し合いをスタートできればと考えましたので、来年度はそういった意味で「検討」としているところです。今日の報告の中で、パンフレットやアプリについては、特に、委員からの評価が高かったと受け止めましたので、地域公共交通会議からの要望に基づき、市としても前向きに、よりよいものに転換できるように取り組みたいと思います。アプリの実装については短期間でのテストケースでもいいと思いますので、少しでも何か

できないか、大場教授と話をしていきたいと思います。ありがとうございました。  
以上です。

会 長：ありがとうございます。バスロケも大場教授のシステムについても新しいツールを使っているものですので、可能な補助制度があれば有効的に活用していければと思います。他にいかがでしょうか。

委 員：＜意見なし＞

会 長：それでは、事務局は今日の意見を参考に、来年度の事業の組み立てをお願いします。委員の皆さんも、来年度に向けてぜひご協力をお願いします。

### （3）今後のスケジュールについて

会 長：それでは、議題3「今後のスケジュールについて」、事務局は説明をお願いします。

事 務 局：＜説明＞

会 長：ご質問がなければ、議事は以上となります。

## 4 事務連絡

## 5 閉会